

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	愛知県葉栗郡木曾川町立木曾川中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	9	10	9	2	30	54
生徒数	305	330	312	7	954	

研究の概要

1. 研究主題

自ら考え、行動する生徒の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

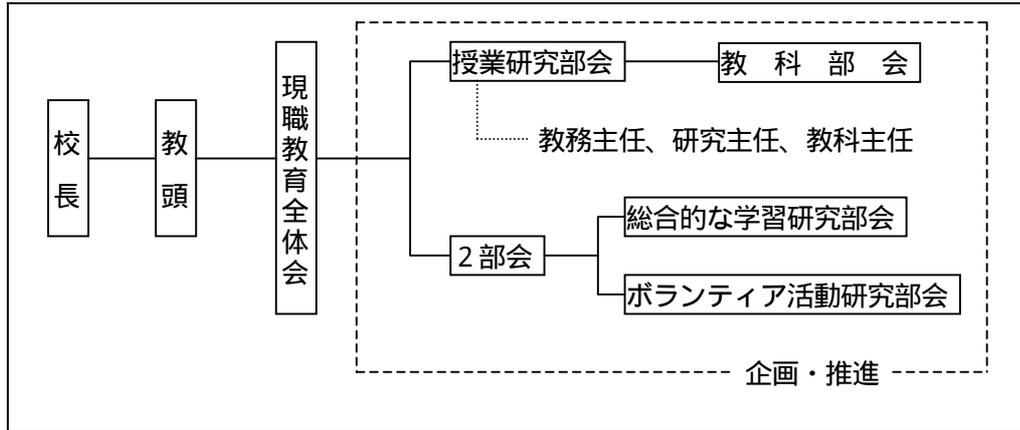
<p>全学年・全領域で実施 生徒の姿を見つめ、伸ばしていくには、全ての教員が、指導方法について学び合 が必要である。同時に、個々の生徒をどう伸ばしていくかを教科を越えて語り合 うことが必要だと考えた。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指す取り組み 研究の見通し(仮説) 《研究仮説》 基礎・基本の定着を図る取り組み及び学力向上に向けた取り組みができれば、学習意欲が高まり、自ら考える喜びを味わうことができる。 選択履修を通して、補充学習や発展的な学習が展開できれば、生徒一人一人の能力や個性の伸長を図ることができる。 総合的な学習の時間で、生徒が自分の興味・関心を追究し、自分の将来の夢や生き方を考える体験学習をすれば、総合的な学力が身に付くと同時に、夢に向かって突き進む生徒が育つ。 地域で社会貢献を積極的に行えば、自分の将来の夢や生き方がさらにしっかりしたものとなり、自分で考え行動する生徒が育つ。</p> <p>研究の内容・方法 教科中心の授業研究および授業公開を中心とした校内研修会を持ち、指導方法・指導体制の工夫改善を進めていく。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指す取り組み 研究の見通し(仮説) 平成15年度と同じ仮説で研究を進めていく。</p> <p>研究の内容・方法 積極的に授業研究を実施し、指導と評価の一体化を図り指導方法の改善や教材の開発を行っていく。TTの有効な活用形態も追究していく。体験的学習の機会を多く設定し、生徒の興味・関心を大切にしたい学びを大切にしてい</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 地域の人材や教材を発掘することができ、生徒のより主体的な学習を深めていくことができた。
- 個々の生徒の学びの過程を大切にした課題解決学習ができるようになった。
- 生徒と教師の人間関係を深めることができ、生徒の学びをよりの確に把握できるようになった。

2. 今後の課題

- 授業改善を進めていくために、授業研究を進めていく。
- 地域の人材を取り入れたTTの可能性を追究していく。
- 「やらなければならない」のではなく、「必要だからやる」というTTをどの教科でも行う。同時に、TTの有効な形態を追究していく。

学力把握のための学校としての取組

4月にNRTを実施し、学習の定着度を確かめるため、昨年度の数値と比較することによって測定している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年1月27日(火)午前9時より、域内の小中学校を対象に学校公開を行い、本校の研究成果を公表した。また、本校の研究内容を研究要項にまとめ、域内の学校に配布するとともに、HPにも掲載した。
平成16年度は、10月29日(金)に学校公開を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|-------------|-------------|-----|--------|
| 【新規校・継続校】 | レ15年度からの新規校 | レ14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | レ3学級以下 | レ4～6学級 | | |
| | レ7～9学級 | レ10～12学級 | | |
| | レ13～15学級 | レ16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | レ少人数指導 | レT・Tによる指導 | | |
| | レその他 | | | |
| 【研究教科】 | レ国語 | レ社会 | レ数学 | レ理科 |
| | レ外国語 | レ音楽 | レ美術 | レ技術・家庭 |
| | レ保健体育 | レその他 | | |
| | | | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ有 | レ無 | | |